

行ってみたい
マのお店
14

～外国人シェフや外国人と共に、頑張っているお店を紹介～

スリランカ レストラン&バー
KING LION(キング ライオン)

【住 所】川崎市高津区下作延2-5-41
※東急田園都市線 溝の口駅南口・JR南武線 武蔵溝ノ口駅下車
徒歩5分(高津区役所の先右手)
【電 話】044-857-1158
【営業時間】12:00～14:00、18:00～22:00
【定 休 日】水曜日、木曜日

もともとイタリアンのシェフをしていた店主のアミラさんが、偶然の出会いによりこの地でスリランカ料理のお店を始めたのは今から8年前のこと。野菜、魚、肉をふんだんに使ったカレーが評判を呼び、以来某グルメサイトのエスニック部門にて「百名店」に選出されるまでになりました。こだわりは、野菜はごった煮にせず、それぞれの野菜の味を生かすように調理。スパイスやハーブを使ったイワシ、マグロ、エビなどの海の幸のカレーは、故郷スリランカの海を思わせる現地の味。この比類なき味に魅せられて日参されるお客様もいるそう。



辛いけれど油脂を控えているのでヘルシー

お店の合間を縫って、プロの料理人も参加するほど人気のお料理教室を開催したり、カレー巡りの旅をスリランカで企画したり、食を通じた文化交流にも積極的。スリランカ出張による休業もあるので、右記のSNSでチェックしてからお出かけくださいね。



店主のアミラさんはレゲエと錦鯉が趣味!

お店の合間を縫って、プロの料理人も参加するほど人気のお料理教室を開催したり、カレー巡りの旅をスリランカで企画したり、食を通じた文化交流にも積極的。スリランカ出張による休業もあるので、右記のSNSでチェックしてからお出かけくださいね。



Instagram



Facebook

(取材・文・撮影:編集ボランティア 水野裕子)

川崎で頑張っている
民間団体紹介
61



フラダンス団体 YUKINO HULA STUDIO LINOHANANA

当団体は2021年、コロナ禍にスタートしました。おかげ様で5年目を迎え、80名以上のオハナ(ハワイ語で家族の意)と呼ばれる生徒に恵まれました。武蔵小杉、宮崎台、あざみ野で活動しており、2歳から80歳近いメンバーが年齢や立場に関係なく和気あいあいとフラを学んでいます。

【当団体の特徴】

マウイ島のクムフラ(フラの師範)であるカマカ・クコナ(クムカマカ)に師事しています。フラの母と呼ばれた偉大なクムフラ、マイキ・アイウ・レイクのフラを継承している人物です。ミュージシャンとして3枚のCDアルバムをリリース、現在はフラの衣装デザインも手がけています。自ら詩を書き、振りを考え、それに合う衣装やレイ(装飾品)を創造する、ゼロから全てを作る師範の世界観に感銘を受け、教室の門を叩いたのが始まりです。ただ踊るだけではなく、「フラとはハワイの文化である」ことをいつも私たち日本人に教え続けてくれています。そんなクムカマカの正統なフラを、楽しくアットホームな環境で学ぶことができます。

【当団体の活動】

地域のお祭り、ハワイアンイベント、定期的にレストランショーや、慰問のご依頼を頂き出演しております。初めての方も、健康な身体づくりが目的の方も、技術を磨いて学びを深めたい方も、大会に挑戦したい方も、個々の目的を尊重して丁寧に指導します。定期的にクムカマカが私たちの元に訪れハワイの文化やフラを伝授し、時に私たちがマウイ島へ出向き、フラを通してハワイの方との国際交流も行っております。ウクレレや、踊る為に必要な装飾品であるレイメイキングも学べ、その人がやりたい事、学びたい事が叶う場所を提供しています。

【今後について】

2025年は挑戦の年。指導者である私自身がクムカマカの元大会に挑戦。そして秋には、私の元で育った小学生たちが大会に出場することになりました。これからも生徒たちの人生がフラを通して輝けるよう、全力でサポートしていきます。皆さんも私たちと共に、美しいハワイの文化を学びませんか。お気軽にお問い合わせください。



フラダンス教室 Yukino Hula Studio LINOHANANA

代表者:野橋凜乃
メールアドレス:yukino.hula.linohana@gmail.com
電話:080-4434-7901
インスタグラム:@linohana_hula

図書・資料室から本のご紹介



『私は十五歳』

アズ・ブローマ原案；なるかわしんご絵(イマジネーション・プラス, 2024.8)



「仮放免」ということばを知っていますか。日本で育ち、義務教育を受けた女子高校生アズ・ブローマさんは、在留資格を失い、強制送還のおそれもある「仮放免」になりました。「仮放免」のアズ・ブローマさんは健康保険にもはいれず、アルバイトもできません。そんな現実をつづった彼女の作文は「仮放免の子どもたちによる絵画作文展」で優秀賞を受賞しました。『私は十五歳』はその作文をもとにしたものです。この絵本に描かれた一人の女子高校生の経験をきっかけに、日本で暮らす「仮放免」の子どもたちのことを考えてみませんか。

『英語DE落語動物園』

桂かい枝文；おべとも絵(鈴木出版, 2015.2)

日本語と英語のバイリンガル絵本です。落語はひとりで身振り・手振りで何役も演じ、扇子や手拭を道具に話をすすめ表現します。最後の「サゲ」とよばれる話の終わらせ方が特徴の話芸です。

さて、動物園で頭も人も使わず、人との対応もなく、昼飯・昼寝つきで制服も無料貸出、AM10:00-PM4:00で日給¥10,000のアルバイトとは、どんな仕事でしょうか。そして落語の「サゲ」はどのように表現されているのでしょうか。英語で落語体験してみませんか。

